

(平成25年度 子ども発達センターニュース)

スクッピーだより 6月号

TEL/042-486-1190

E-mail/ ayumi@w2.city.chofu.tokyo.jp



平成25年度が始まって、早や2か月が経ち、4月から発達センターを利用開始したお子さんも少し慣れてきたところでしょうか。

今年の春は寒暖の差が激しく、また強風が吹き荒れ、特に自転車通勤族には辛いものがありますが、先日とてもうれしい経験をしました。駐輪していた自転車が将棋倒しになり、どうにも一人では動かせずにいた時、通りかかった若いお母さんが自転車からわざわざ降りて助けてくださいました。センター駐輪場でも同様な状況があると思います。お困りの事がありましたら、お気軽に事務室に声をかけてください。

さて、発達センターは4月より、子ども生活部から福祉健康部に組織変更しました。今後10年間を目標年次とする市の基本構想の初年度であり、基本計画では、子どもの健やかな成長・発達への支援、関係機関と連携してライフステージに応じた一貫支援に取り組むこととしています。

事業内容は大きくは変わりませんが、発達センターの開設を機に、新規事業として開始しました「相談事業」は、ますます充実したものにしていかなければならないと考えています。18歳未満のお子さんを持つ保護者からの相談機関であり、就学後もお相談をお受けできること、また「緊急時等一時養護事業」や「相談支援事業」についてもより多くの方にご利用いただくために、子ども施設・教育機関等に対し、なお一層の周知活動を行っていきます。さらに、個別記録票「i-ファイル」についても、多くの方に所持していただくための普及啓発を行い、就学後も活用していただけるよう小学校との連携に努めていきたいと考えています。

これら事業のあり方等について、引き続き運営会議で検討してまいりますので、みなさまの忌憚のないご意見、ご提案をお願いいたします。



センター長 高橋 由美子



今年の春も桜がピンクの花を咲かせ、私たちの目を楽しませてくれました。自転車置き場の横の桜には大きなみどりのインコが遊びに来ていましたよ。発達センターの周りの桜はぐんぐんと大きくなり桜のトンネルになるまでになりました。通園事業あゆみも少しずつ大きくなっていきたいと思います。



新しいクラスでスタートした4月。お友だちや先生にも少しずつ慣れて、みんな笑顔で通っています。身体遊びや、粘土遊び、お散歩などたくさん遊ぼうね。

あゆみでよく行くお散歩場所、発達センターの前の「みどりの広場」は大きな木がたくさんあり、木に登り枝に腰掛けたり、近くを走る車を眺めたりできます。ちょっと足をのばして武蔵野の森や野川公園へバスでお出かけなどもしています。こどもたちは遊具で思い切り遊ぶだけでなく、葉っぱや昆虫を見つけ、風や土の感触を感じながら、行く道々でも色々な物を見つけてくれます。小さな発見を教えてくれる子どもたち、自然を感じるひとときです。そんなすてきな子どもたちに「ああ～楽しかった！明日もまた来たい！！」と一人ひとりに思っただけのように、今後も職員一同頑張りますので、皆さんのお声やご意見をお待ちしております。

通園事業 園長 小田島 朱美

子ども発達センターが大事にしていること

センターでは、子どもたちの「遊び」を大事にしています。

それは... 遊ぶ過程で生じる感情や刺激などいろいろな経験が、
子どもの成長の力になると考えるからです。

- *子どもは...
- ・自分の好きなことで遊ぶ
 - ・大人や友達とやり取りして遊ぶ
 - ・友達のやっていることに興味を持ちながら見る
- *大人は、その楽しみ方にじっくり付き合います。

遊んでいる時のキーワード
楽しい・面白い・
気持ちいい

意欲

「もっとやってみたい！」

達成感

「やったあー！」

人は
心地よい存在

大人は、
子どもの気持ちを、代弁することが
大切です！

代弁することで...

大人：“その気持ち分かっているよ”
子：“気持ちを分かってもらえた！”
“よかったあ~”

体も心も安心して
過ごせること

- ・どんな活動でも、子どもが伸び伸びと遊べる環境を設定する。
- ・子どもの好きなこと・嫌いなこと・不安になることを大人が理解して関わる。
- ・遊びの中で、子どもが失敗感や恐怖を抱くことを少なくする。

*その結果、子どもは、遊びやいろいろな活動を安心して楽しめるようになります。その中で、できる
ことが増えたり新しいことにもチャレンジしようと思うようになります。

『楽しい・面白い・気持ちいい』『体も心も安心して過ごせること』『人は心地よい存在』の3つのポイントを、
子どもたちがたくさん感じて経験していくことで、子どもたちの中に“自己肯定感”(自分の気持ちが満たされること)が育ち、“自信”が積み重なっていきます。そのことが、のちにつながる集団生活・社会との交流への
基盤になっていきます。

「遊び」には、お子さんの成長に深くつながるたくさんの要素が含まれています。
センターの職員はこのような考えのもと、「遊び」に取り組んでいます。

保護者の活動の紹介

あゆみ父母会

通園児保護者のみなんで活動していく会です。親睦会や勉強会の開催、「あゆみ」行事への参加を通して、子どもたちが安心＆楽しく通園できるように支援していきたいと思ひます。

また保護者同士の交流を深め、通園生活における悩みや疑問などはみなんで知恵を出し合ってひとつひとつ解決していきたくと思ひます。

今年度は役員9名が中心となり取りまとめていきますが、なにかと至らない点もあるかもしれませぬ。父母会活動へのご意見やご希望などがありましたら、1階事務室カウンターにある「父母会ポスト」よりしくお願い致します。

あゆみ父母会代表

スクッピー友の会

2010年4月に子ども発達センター協力のもとに発足しました。

通園「あゆみ」、発達支援部門、卒園児のママからそれぞれ1名ずつが世話人となって活動をしています。

センター利用者対象（現旧問わず）の「おしゃべり会」を年2回開催し、幼稚園・保育園や小学校の情報交換をしたり、子育てや療育の悩みや疑問、愚痴を言ってもOK！センターの利用形態を問わず、就学後まで含めたお母さん同士の交流の場を作りたいと思ひています。

また、個人では言い出しにくいセンターへの意見や要望を取りまとめ、話し合っで回答をもらったり、センターまつりではお子さんの小さくなった衣類などを集め「リユースコーナー」を出店しています。

次回のおしゃべり会は

7月9日(火)10:00~13:00

場所：子ども発達センター3階です。

詳細はチラシ参照（センターにあります）

25年度世話人

おやじの会

在園児のお父さん方を中心に、発達センターの職員や、卒園児のお父さん方も交え、お酒（飲めない方もいます。）を飲みながら、お父さん同士の交流をしたり、お子さんのことなど気軽に情報交換、相談のできるアットホームな飲み会を、定期的に開催している会です。

是非お気軽にご参加いただき、「おやじの輪」を一緒に広げていきましょう！

「おやじの会」の開催は決まり次第、お知らせを配布、館内に掲示いたしますので多くのご参加お待ちしております。

NPO法人調布心身障害児・者親の会

昭和43年、「障害があってもこの子たちを地域で生き生きと育てたい」という想いから、16名のお母さま方により設立、旧あゆみ学園の前身である「あゆみ教室」も作りました。

成人「木の実」、肢体不自由「れんげ」、中高生「あざみ」、小学生「すみれ」、未就学児「こぐま」のグループがあります。

（平成25年5月現在 会員数350余名） 年会費2000円

親の会のHPができました！

『こぐまグループ』『みんなのサポートネット』で企画する懇談会・勉強会や、入会についてのお問い合わせは……

<http://chofuoyanokai.com>

こぐまグループ

0～6歳（未就学児）で、発達に遅れや偏りのあるお子さん、特別な配慮が必要なお子さんのママたちで作るグループです。

日々の生活や療育、就園・就学に役立つ勉強会や懇談会を年に5、6回実施しています。

（非会員参加OK!）

みんなのサポートネット



発達に遅れや偏りを持つお子さんを持つママたちが情報交換したり、若いお母さんたちの「お助け隊」となるため、様々な企画を考えていくプロジェクトです。

今年度も先輩お母さんとの懇談会や専門家による学習会を企画中です。（非会員参加OK!）

相談事業の紹介

子ども発達センターは、18歳未満のお子さんをもつ保護者の相談にも応じています。就学前にセンターを利用していたお子さんだけでなく、利用していなかったお子さんについてもご相談をお受けしています。

お子さんの発達について、不安や心配がありましたらお気軽にご相談ください。

 <でんわ> 

代表：042-486-1190
相談受付
専用：042-486-3200

緊急一時養護事業・リフレッシュ支援事業

ご家族の病気や用事のため療育が困難な時（緊急一時養護事業）、また、ご家族の休息などの必要に応じて（リフレッシュ支援事業）、お子さんを一時的にお預かりしています。

相談支援事業

18歳までのお子さんについて、保護者の相談に応じると共に、障害児通所支援や障害福祉サービスを利用する際に必要となる、『サービス等利用計画』の作成や見直しを行います。

i-ファイルは、お持ちですか？

❖ i-ファイルとは...

- ・“i-ファイル”の「i」には、「individual（個別の、個人の）」や「identity（個性・主体性）」、「愛」という意味が込められています。
- ・<目的> 発達に遅れや偏りがあり、個別的な支援を必要とするお子さんが、継続的な支援を受けられるように作成しました。



❖ 使い方

- ・お子さんの健やかな成長のために、保護者と様々な機関が連携・協力して支援ができるよう、お子さんの様子や、これまでに受けてきた支援の内容などが書き込めるようになっています。
- ・例えば...

就園時・就学時など“i-ファイル”に情報をまとめておくと、書類の作成やお子さんについて説明する負担が軽減され、継続した支援が期待できます。

ファイリングの書類ポケットも挟めるので、支援のまとめシート・保健・医療シートなど一緒に保存できます。

❖ 配付場所

- ・発達センターの事務室で配付しています。声をかけてくださいね！
- ・教育相談所（教育会館6階）や子ども政策課（市役所3階）、障害福祉課（市役所2階）でも配付しています。



❖ ダウンロードもできます

- ・調布市のホームページ・子ども発達センターより用紙のダウンロードができます。
- ・必要な用紙だけ選んで印刷できます。



今年度は、日々の子育てに活用できるようなアイデアを載せていけたらと思っています。6月号のほか9月号・2月号を発行する予定ですので、今後ともよろしく願いいたします。

